

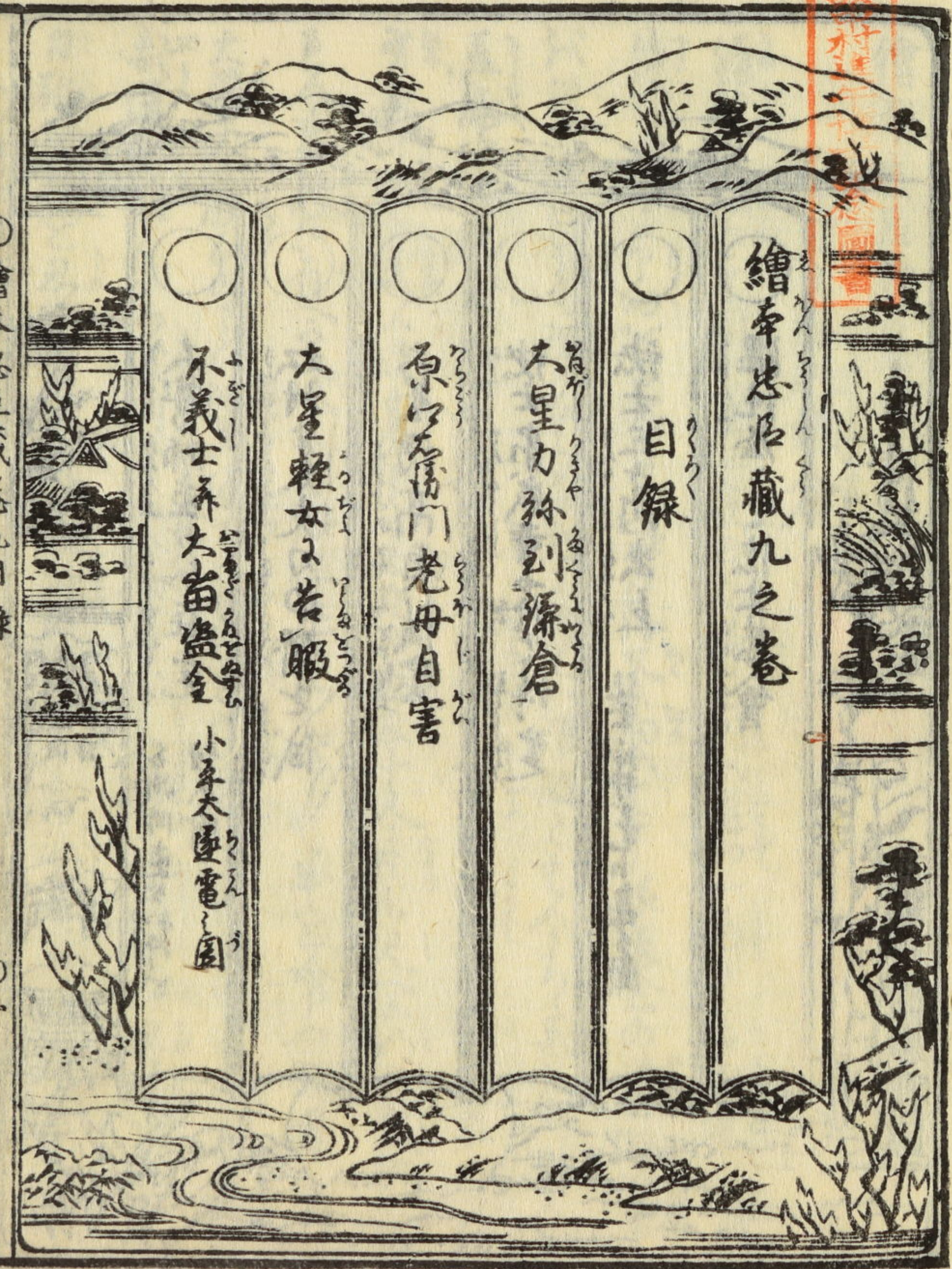


繪奉忠臣藏
九

中村進午文庫
文庫5
762
9



會本忠臣蔵卷九目錄



中村天来

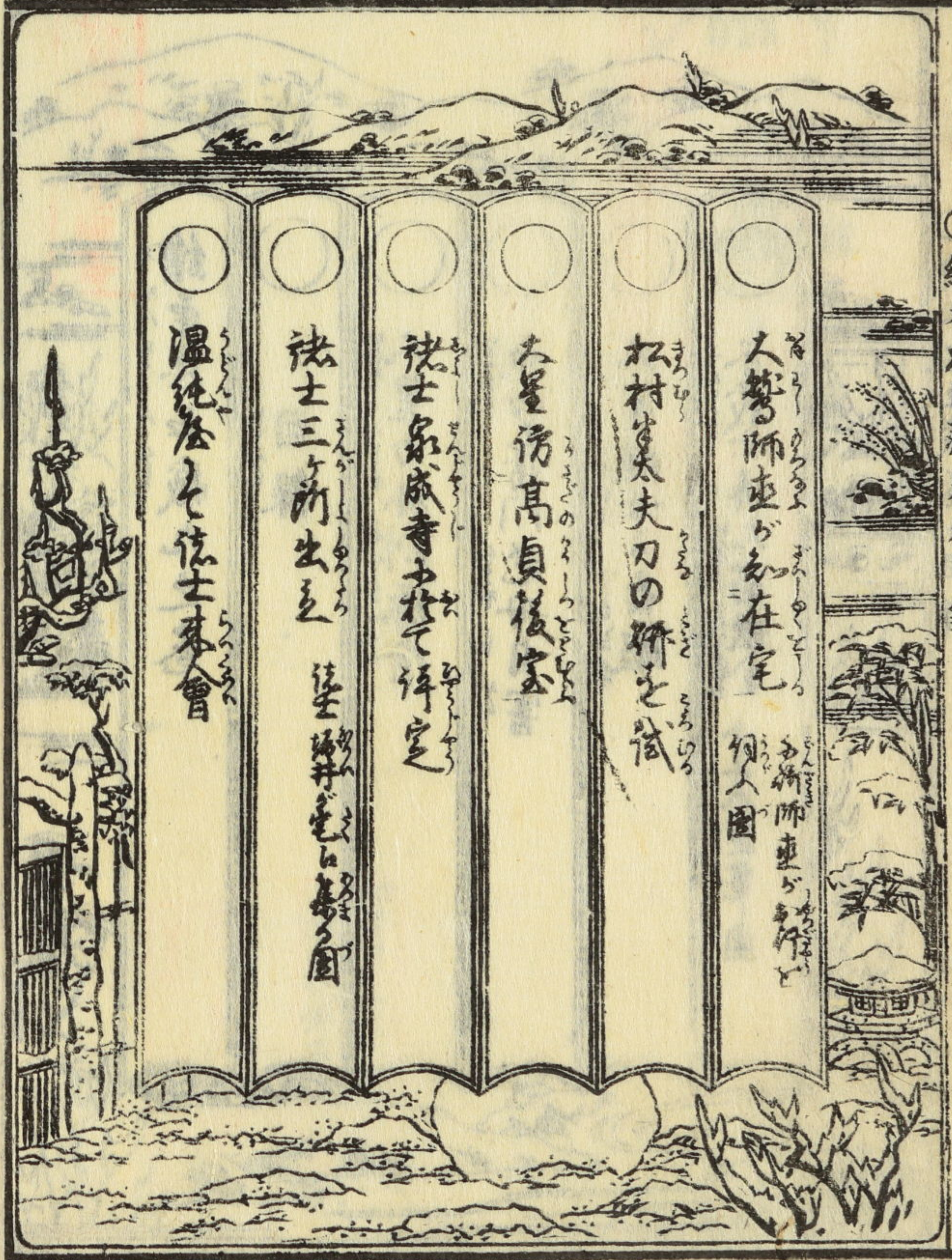
HBS
部門 IV
番 513 9
文

所藏 HK
中村天来文庫
番 9690
小番 9

文庫 5
702
9

昭和三十一年十二月二十七日
法學部附設図書より贈

昭和三十一
中村天来
贈



大勢師車が在宅

大勢師車が在宅
何人園

松村は大夫刀の研を試

大星傍高貞後室

徳士泉成寺中にて伴定

徳士三ヶ所出立

徳士三ヶ所出立
徳士三ヶ所出立の巻

温純谷と徳士末會

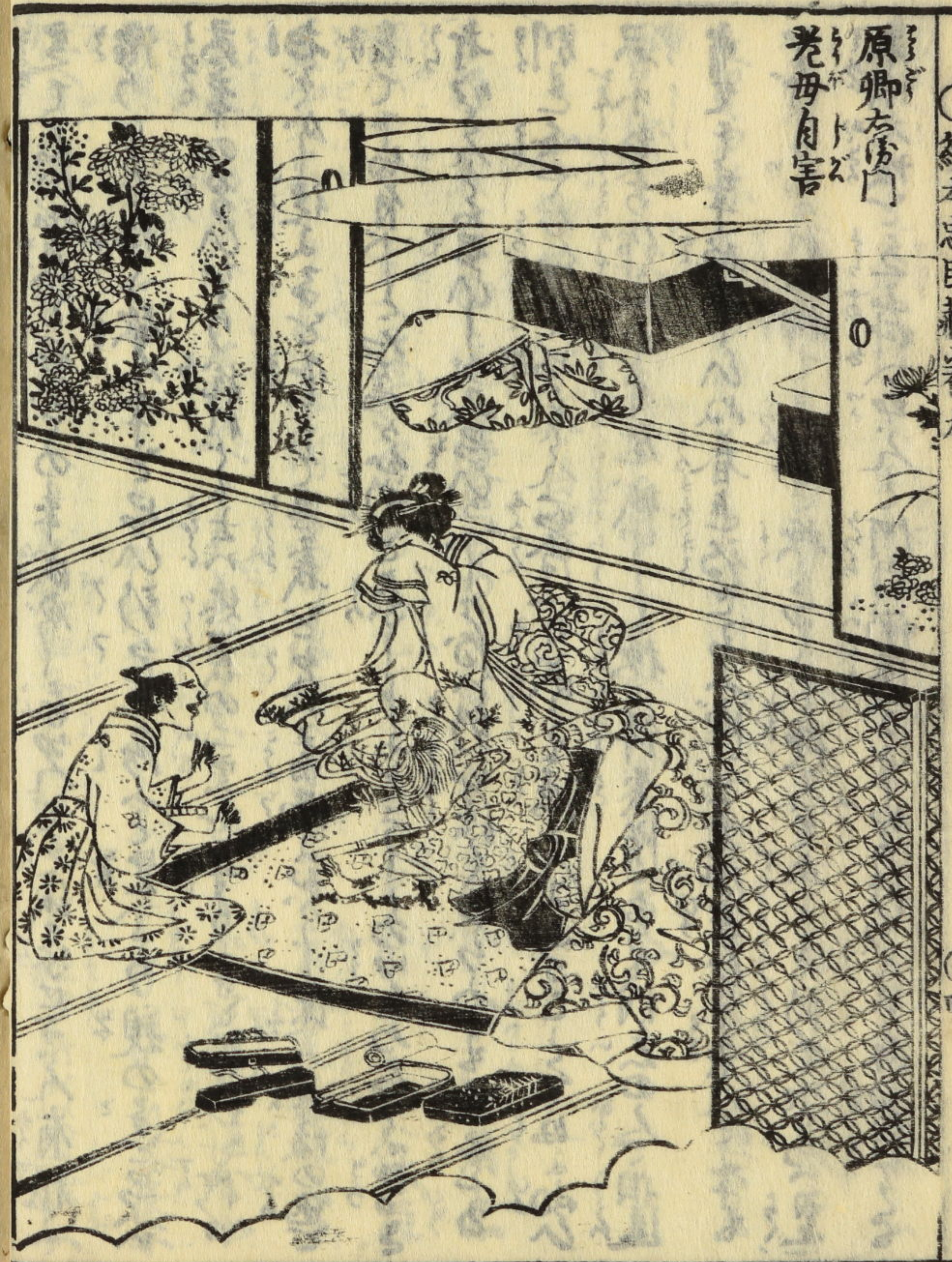
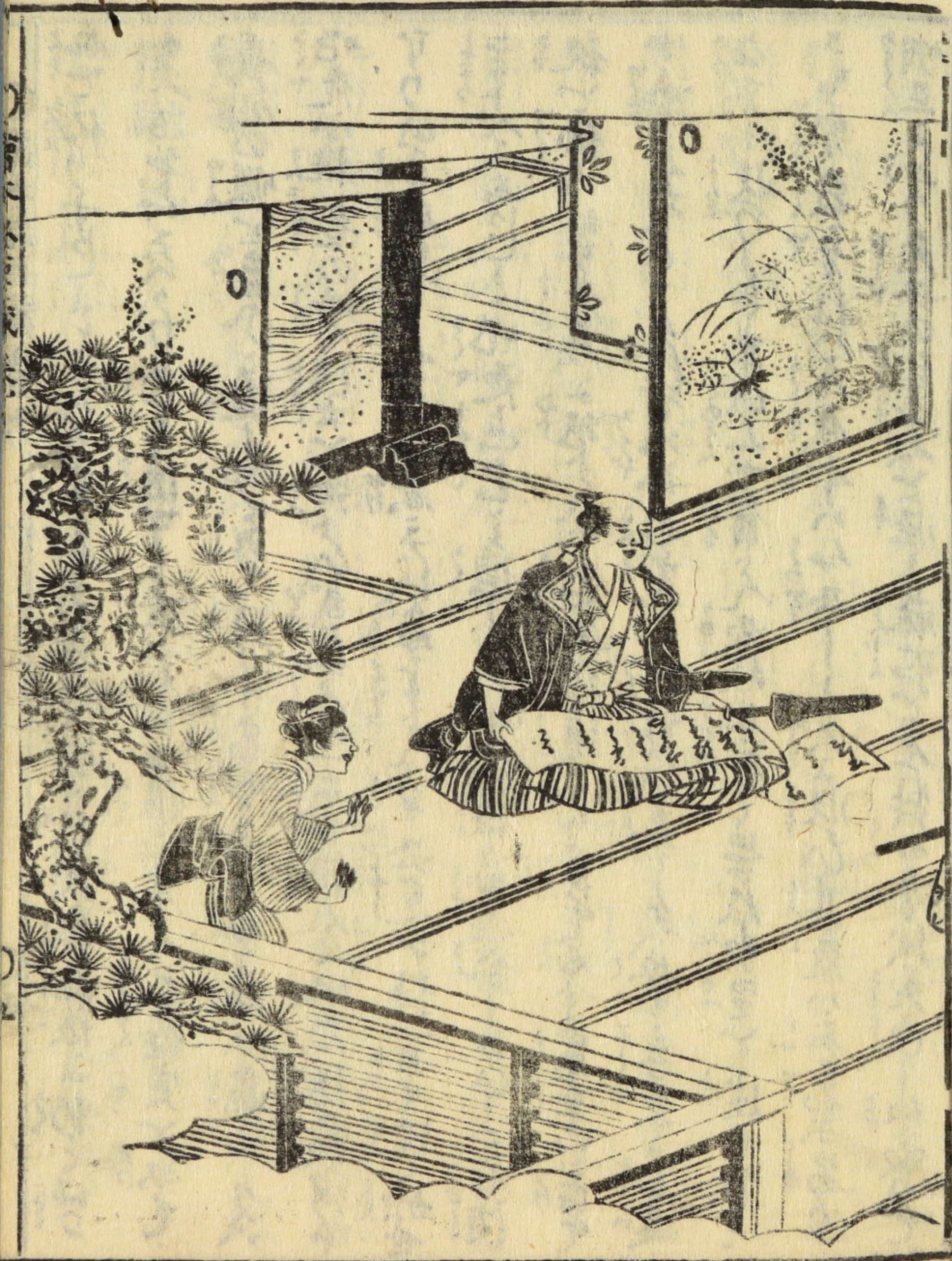
繪本忠臣藏卷之九

大星力弥別謙倉

早稲田大学
圖書館藏書

早稲田大学
圖書館藏書

謙倉の徳士等間老とて秋の勅神と何の志御と致寺居立遠が汗
 偽て大星の下のとまきとまき力弥又向ひて一依謙倉の目士百廿金
 以て疑心何るも理りなり以て及て是の准被とて人より其先切の人と
 其後下と謙倉より老一又の心釋と上方の要利と果るは老の心白
 有る一盟と遠人老多くも必死の老三十人中も一人の心白と其
 其入事敢の自下とて其後壯老の如くして半と喰ふ自育して
 大星大と依ひて六海先運て旅のと價とて其より又子打運て
 武運と初んち城刑男六海宮ふ其消一復然の新願とて其
 力弥人目と及ぶまをんば五條の旅居よりおまきる財海人といふ



原卿右衛門
老母自害

繪本

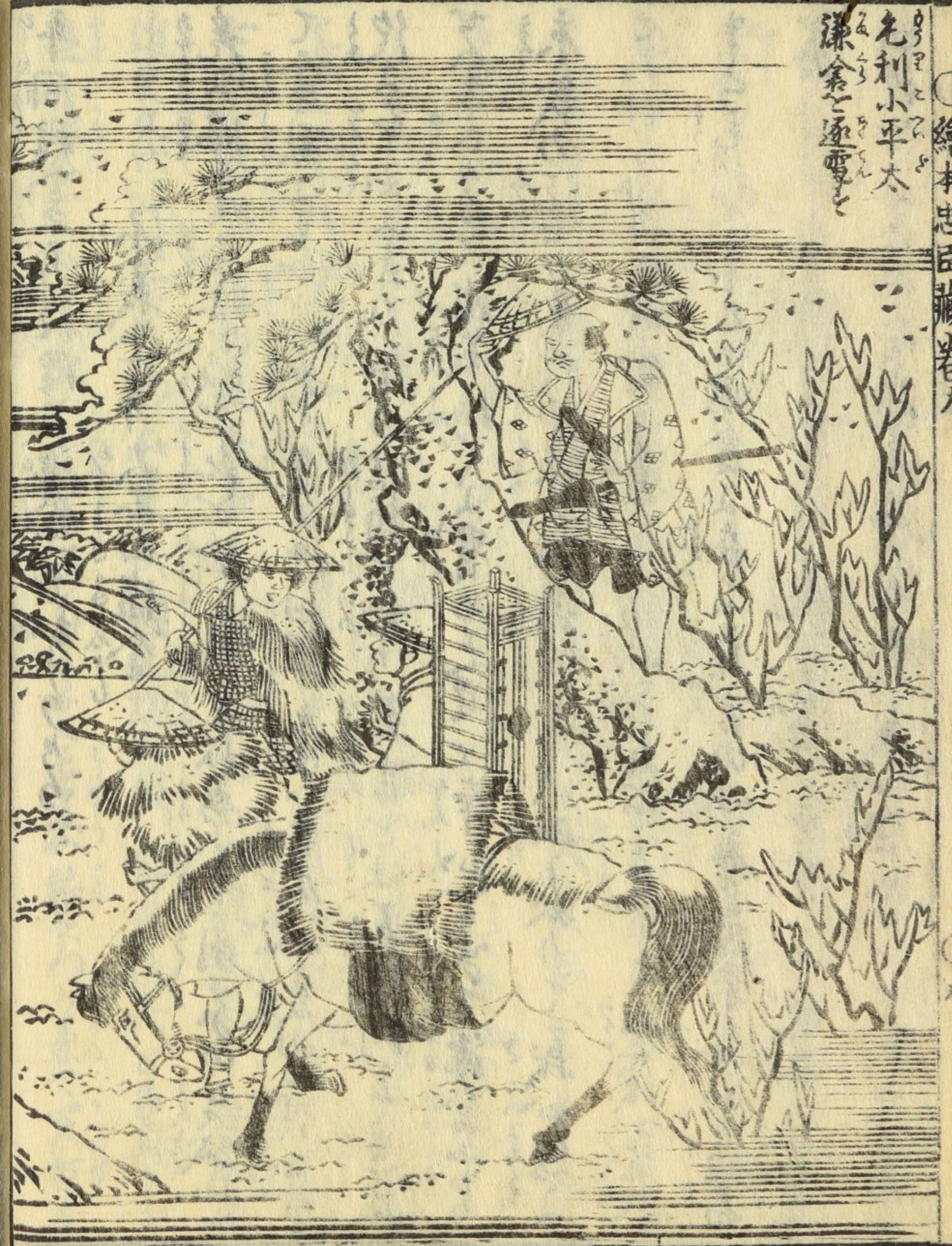
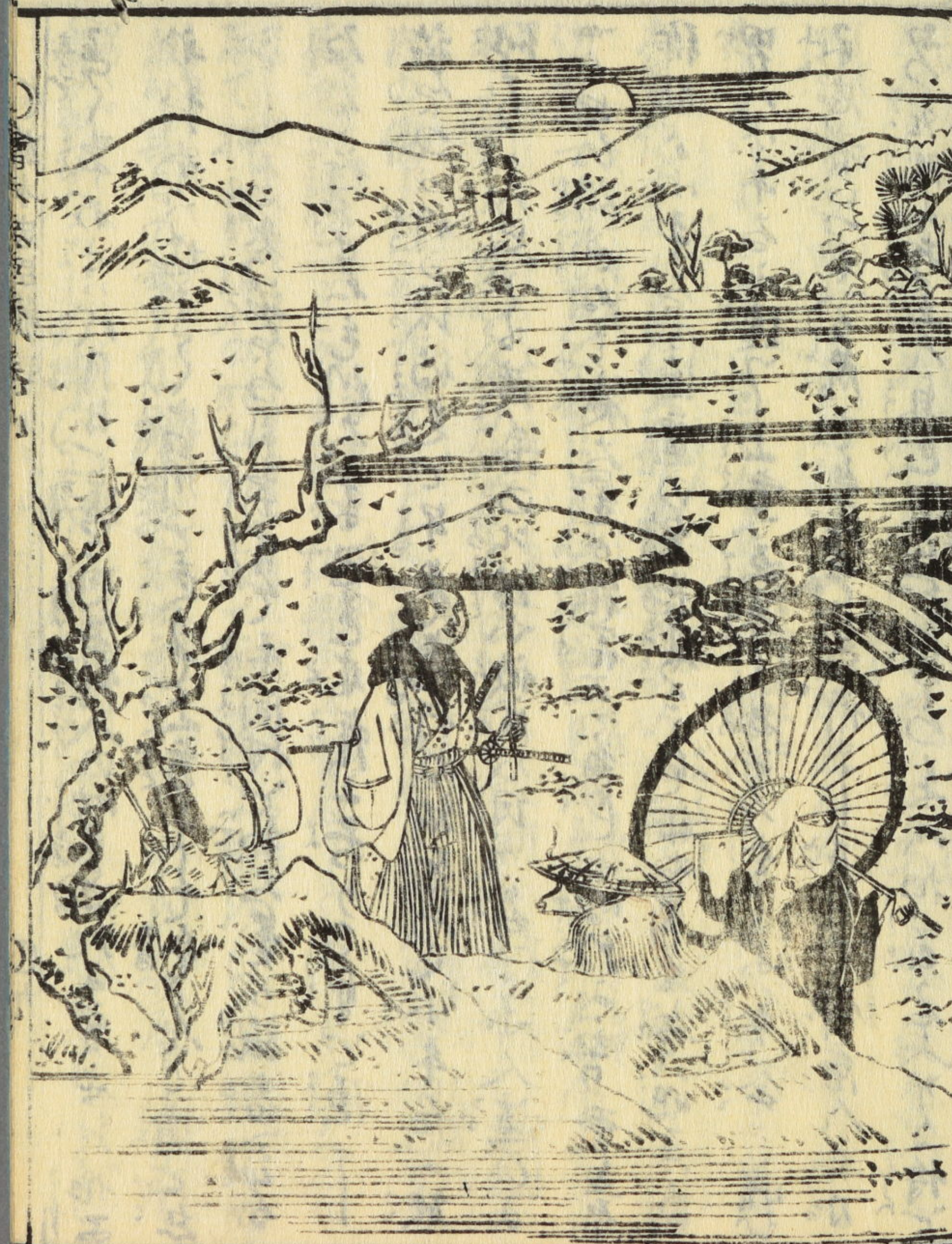
正



越方ゆきの後依り百奉の後乃奉と隠れし其趣は隠れ
 五ヶ月後至も名残と懐く二藤野所の二文を各が
 紫野でどゆと分ちて二文を各が許し大星が東行と視し羽鶴と
 巡りし中維世女ハ打と存と蛇び時ふと六枚の唐紙が渡りし
 大星は首途に取りの渡りし思ひありと七老
 子別一酒和とみて藤倉下向と視しとてとてくれば煙女ハ
 七七八の屏風も違ふべしと唱下と唱和と交り九老ハ殺
 菴で孫りれば大星を又と合交しと毛とを毛とを明し六月
 十日の黎明三條の旗を振り旅のつと劫し相伝ふ人々ハ
 近重文六味村を去り衣素ハ八洞尾孫を渡り室井依六と
 重又藤倉入下人奉を懸しつりてを乗船つりて兼て
 平間村へ至り経て藤倉へをわたりりり

不義士并大田田盗金

先と臨して命と改む死と偷し一残生は思ふは國家の
 て禽獸にも如ざる若くは多し戸田軍を南ハ赤尾
 後と奉ふと入り人の法弱と怒り其言と吐善徳所と
 せんともくと近友振ぐよ宥め大星が奉ふと
 東義の徳士が東行の通し法侍信一がは初りて義
 ころけ大星が藤倉に着せよふおなたは信して
 すと毛刺小平太ハ藤倉に在て義言の吐摩惠京孫助
 と形て徳士何いしが山田が盤と交りしと交りし
 け後と通し人ととれども摩惠京ハ義を堅れ老を
 けられん



光利小平太
謙倉と逐電と

徳川忠臣傳 卷六

去る事のこぼれ月日と違ふ町を村入の時日と違ふ事あるに相違
 形共今八時とて當所と違ひて上方へと参りて参りて道と違
 こころを表はせり用事有て平岡村とおもはる旅の道へ参り
 及て行きたるを利大と云ふ思と云はる後より参りて申と云
 祐平の行と云はれはと早もて参行ぬ旅を参りて小平を旅
 参りて参りて黄昏の比は小平は成バ内へ参りて参りて参りて
 申と云ふ事と云ふ夜と云ふ旅の道と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 祐助の小平を参りて連電の旨を参りて参りて参りて参りて
 男の小平を参りて参りて上方へ参りて参りて参りて参りて
 不忠者いつくらの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 あり既又打参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて

刀嫌し小何れを人打捨て参りて参りて参りて参りて参りて
 参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて
 参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて
 大星流士より参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて
 信士へ相違旨と命じて参りて参りて参りて参りて参りて参りて
 相違大星大田と云ふ止りて参りて参りて参りて参りて参りて
 内の働と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 其え小参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて
 取て押裁け入の時け刀と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 之か其自の参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて
 参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて参りて

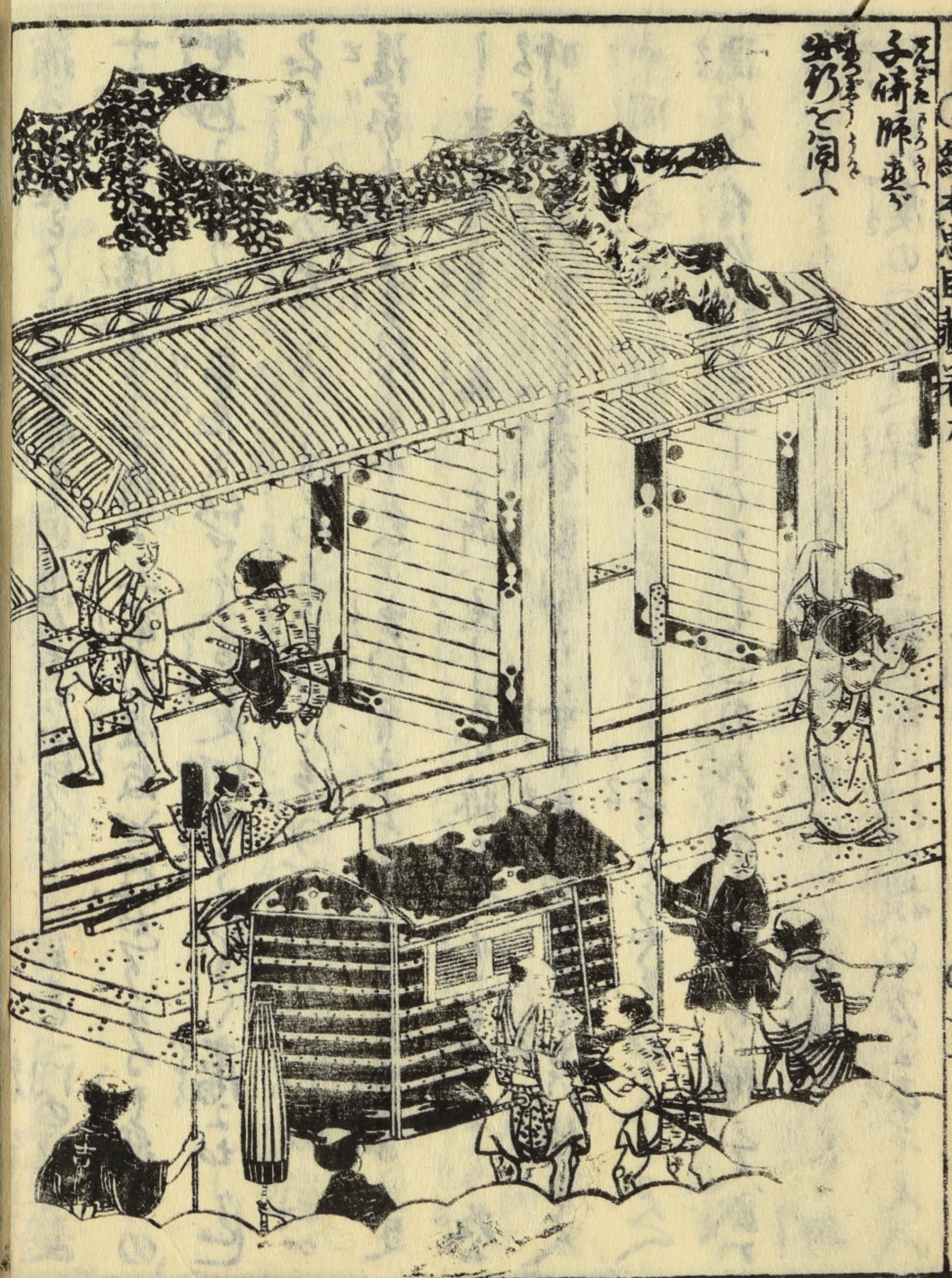
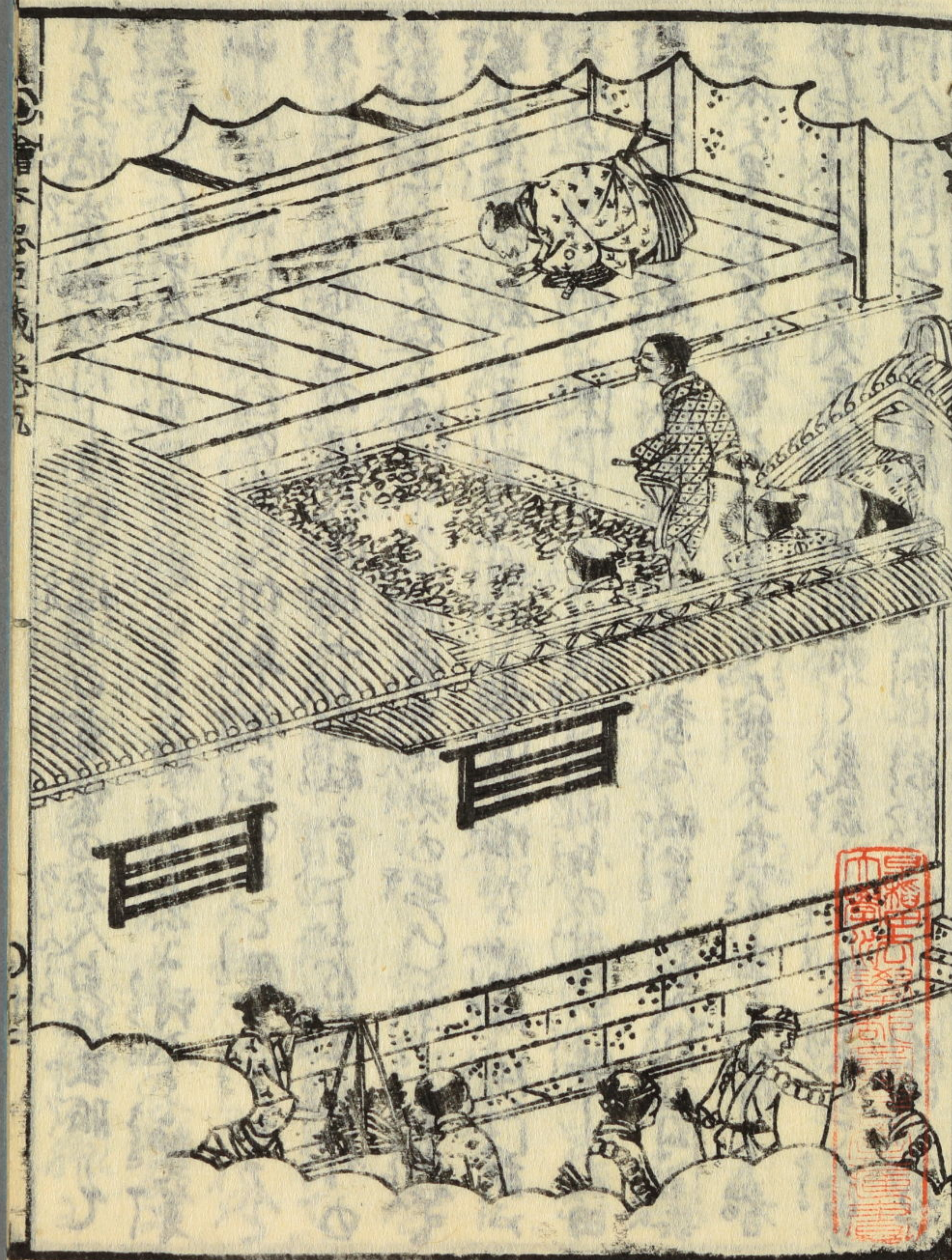
夢も東京と今子と五女侍りのくも形く屋敷にせしめ
 夫もあつかりと侍る音信形くも月法まかり入利金と
 後従ふる小母びて想へるおのり世とまじり金とせりて
 大座せし幼て是とありつる

夫もあつかりと侍る音信形くも月法まかり入利金と
 後従ふる小母びて想へるおのり世とまじり金とせりて
 大座せし幼て是とありつる

義士知州直在室

三後一馬野氏師連ハ 圓平の復はる尾徳徳辰作村人あを屋

浦之石住といはる赤尾の浪人ホリ露久事と忠と一門の徳義
 十日武の百席取一月二死の全救と往あつたるを群女の
 夢もあつかりと侍る音信形くも月法まかり入利金と
 後従ふる小母びて想へるおのり世とまじり金とせりて
 大座せし幼て是とありつる

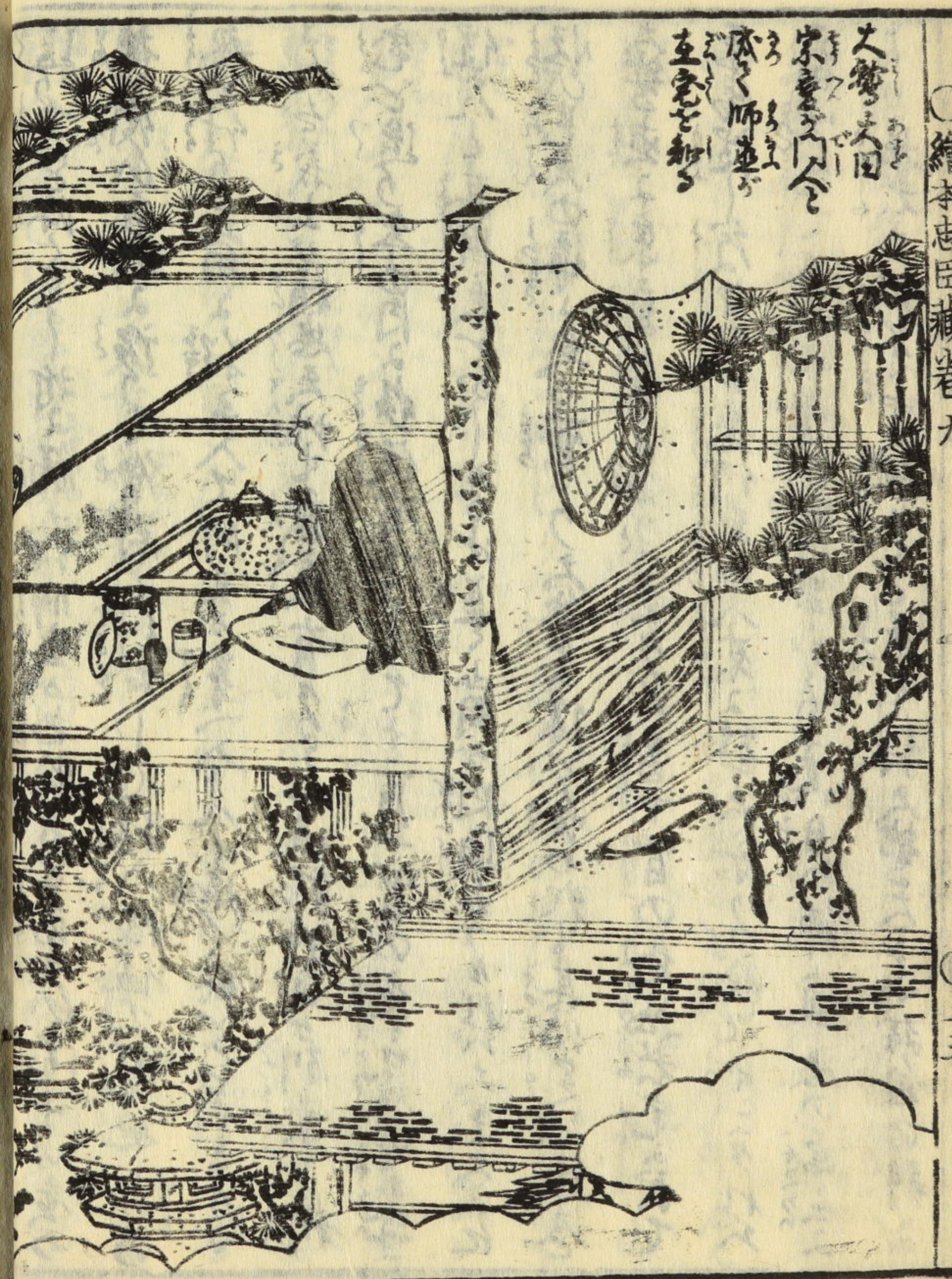
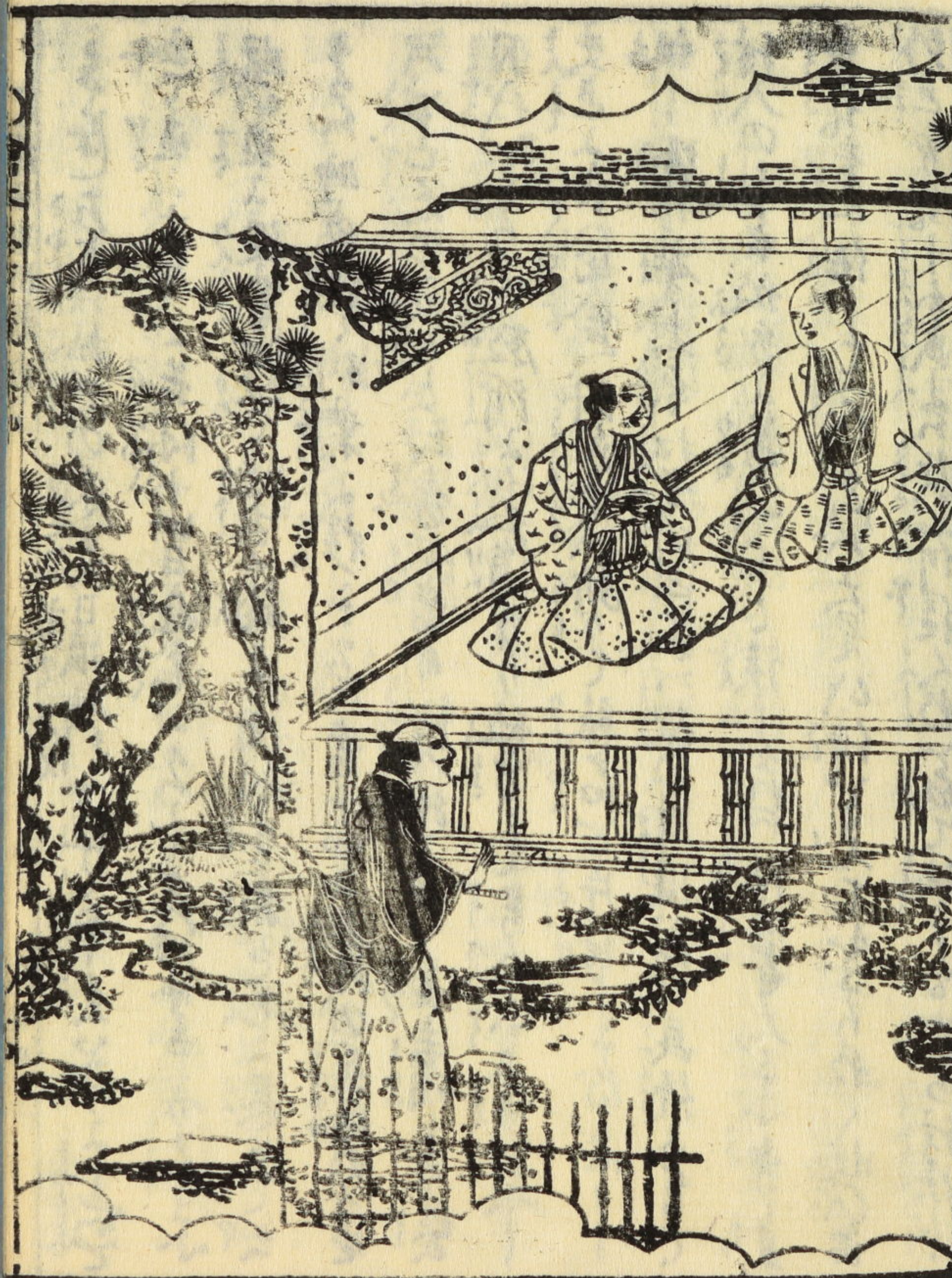


子侍所
出乃之間

新林
九

其被乗者の内より六十餘りの有装の老人白た衣服して
 互あつてん 平及師直なり助のどく形六不悉に討合も
 申す事なく其念のまへ何卒在宅の日と想とす事あるを
 早じら時夜赤尾の浪人恒觸ゆて取らば下なる首系球の
 なる其道と深念と油じく久師直も其道と思ひてか 良利等
 其の徒然の戯も乗事と樂く其道と信する者師直門威ハ
 有人とよまし洲よ津しと者と如使て両衣の着と時一太田
 東をよとる者人師直が知れし者た被乗者も入以山岡と其
 之は大星よきる太星としと津ふ大誓又其の乗事と解し者
 其は津ふ食の久貴其坂登新助と名もしと便と求りて太田
 門へかじじ大誓の乗物皆に持し 其夜が宅へ入て松田も其と

送り交と深くかき折は觸て不師直が把持者とも向い宅中の夜り
 被と何い言確と信りて繪圖し其念しと討入隊伍人討死りの
 要と行り太田よ被乗者入て所直が身へ入んて抱くこととす
 其は義士が精忠天地も感夜有るうや以は師直が別業と新
 宅と送り奉の内は後使有ることと十二月十百の夜は松田も其念
 僅んと其用意とかりたる池邊と山岡が内通ありと其大星をた
 収りて其の導とある事なり大誓と津と合れども其念とす事
 大誓と其乗事と方とありて云々の大誓十百の夜は松田も其念
 系湯僧にたりの事老何卒か入東と被りて不赤く危れゆとされ
 太田も其念とす事近頃其念の事なり其日師直友の事と云
 下り松田も被乗中へ被りてと者も其大誓と其小孫念の事と



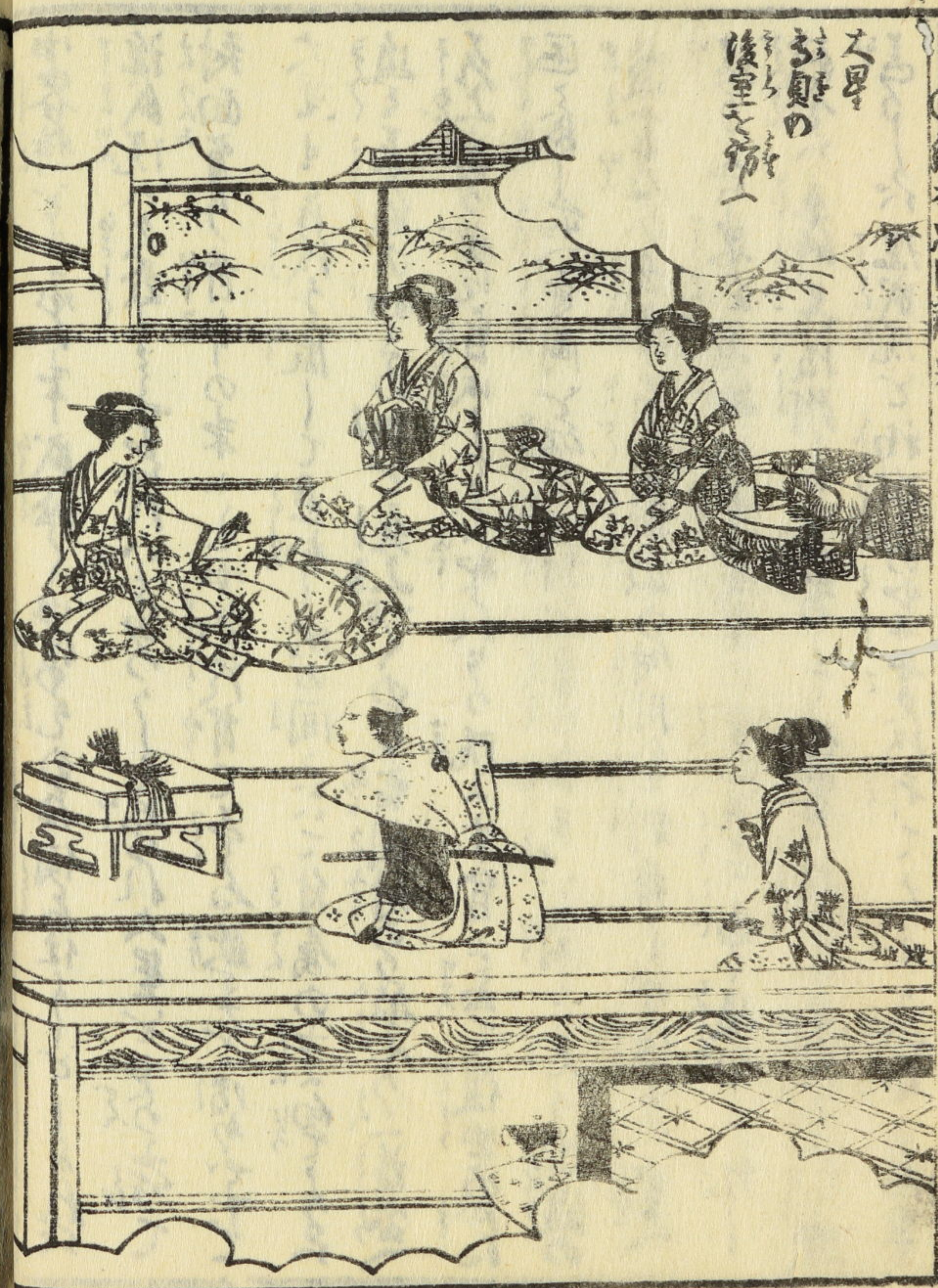
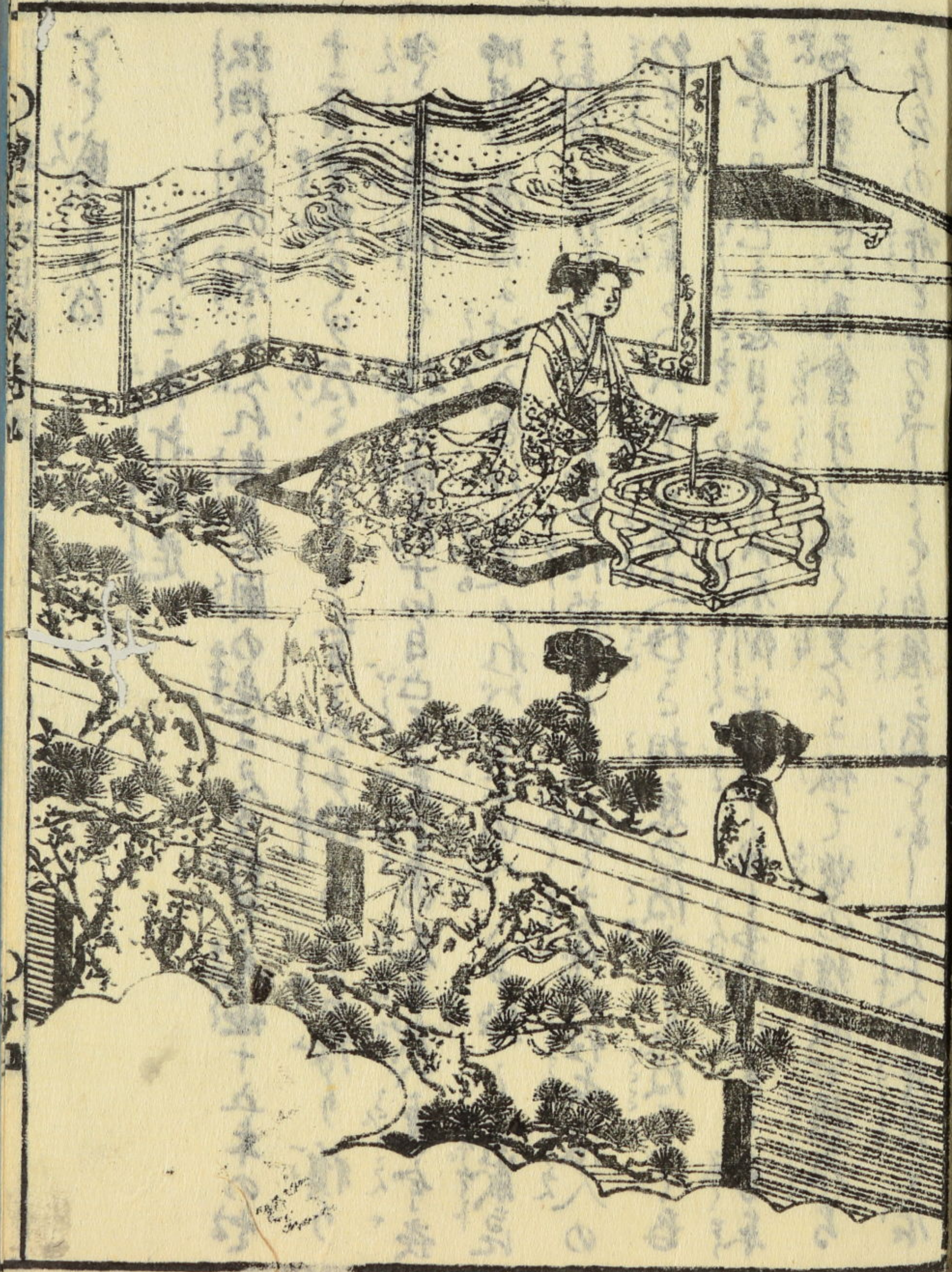
大徳大徳
宗室之内
成之師也
左之也

繪本
卷九

十三

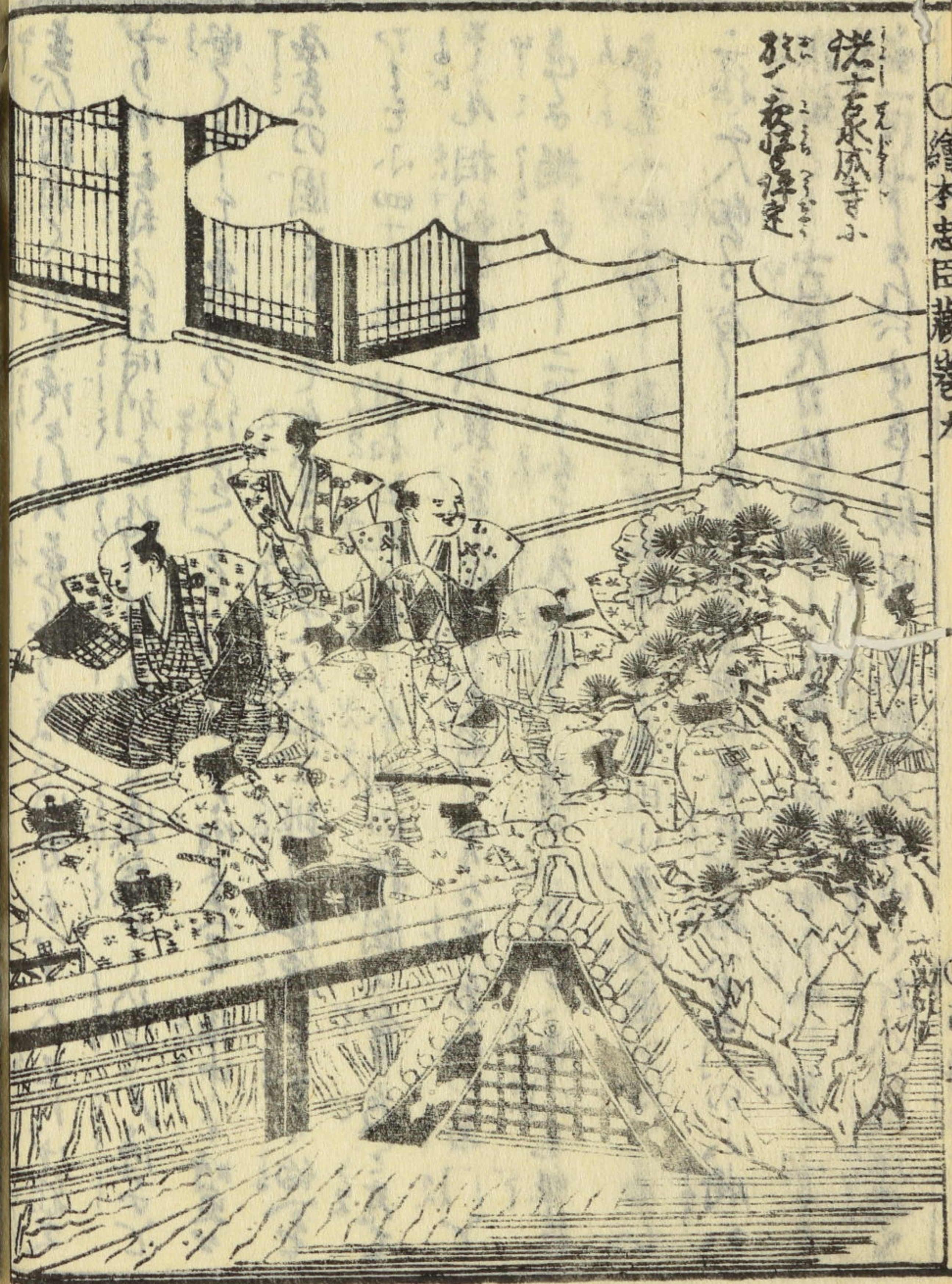
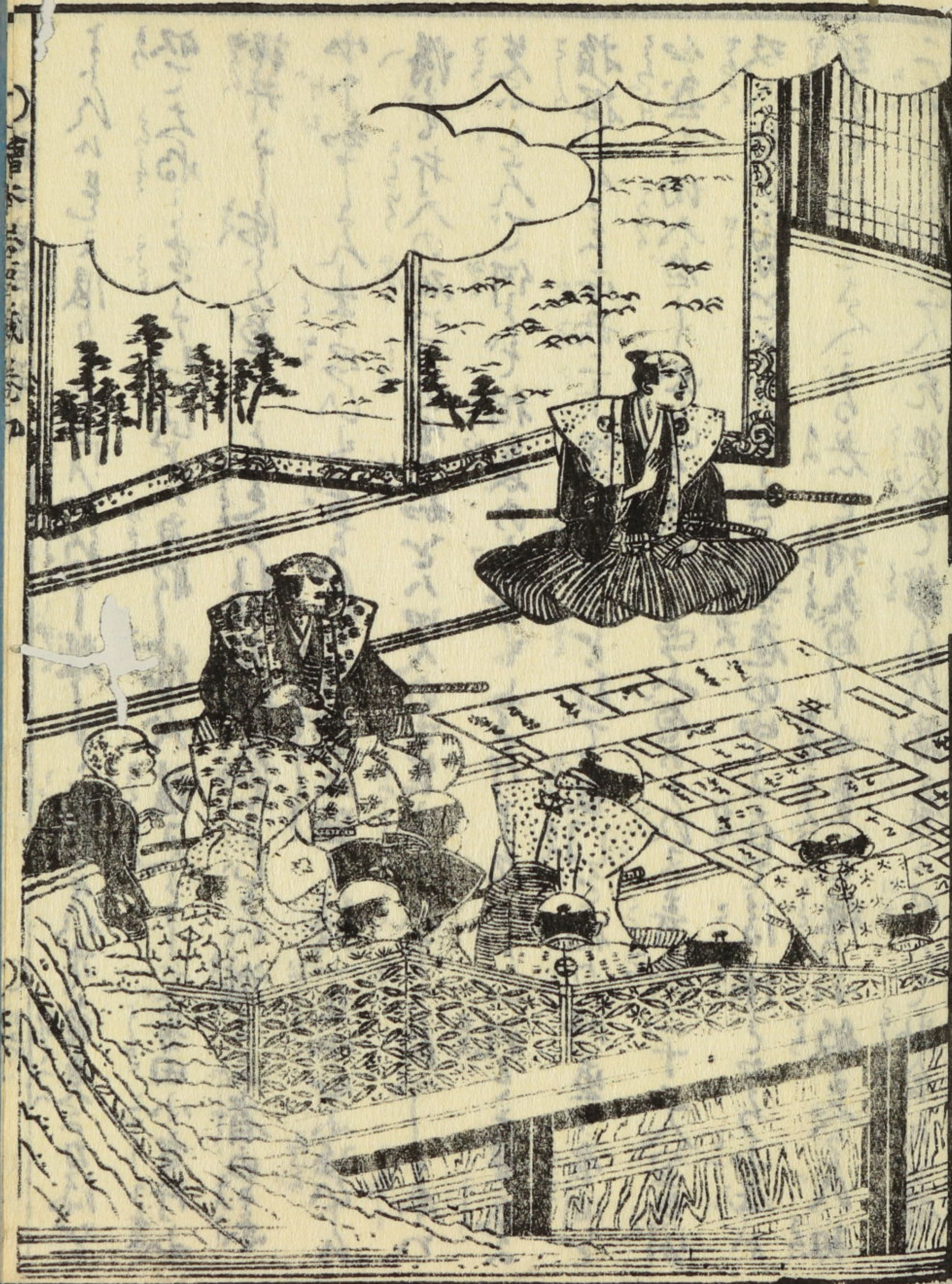


松村お太夫
の研々
心



大甲
お殿の
後室の
御一

繪巻忠臣蔵巻九



徳川幕府
御用金
御用金
御用金

繪本
御用金
御用金



由らぬ
由らぬ
由らぬ
由らぬ
由らぬ

由らぬ
由らぬ
由らぬ
由らぬ
由らぬ

由らぬ
由らぬ
由らぬ
由らぬ
由らぬ

由らぬ
由らぬ
由らぬ
由らぬ
由らぬ



力^{ちから}を^を使^{つか}ひ^てて
温^{ぬる}純^{じゆん}を^をて
人^{ひと}を^を救^{すく}ふ^{べし}

維^い新^{しん}志^し居^い蒲^ふ卷^{まき}力^{ちから}

